

**PRESS RELEASE**2025 年 1 月 15 日  
株式会社 ispace**ispace、ミッション 2 マイルストーン Success 3 「安定した航行状態」を確立！**

株式会社 ispace（東京都中央区、代表取締役：袴田武史、以下 ispace）（証券コード 9348）は Mission 2 “SMBC x HAKUTO-R VENTURE MOON”（以下ミッション 2）において、RESILIENCE ランダーと管制室の通信が確立され、ランダー姿勢の安定とともに、軌道上での安定した電源供給の確立を確認しましたので、お知らせいたします。これにより、ミッション 2 マイルストーン Success 2 の完了に引き続き、Success 3 に成功いたしました。



日本橋にある Mission Control Center（管制室）内の様子

ミッション 2 の RESILIENCE ランダーは、2025 年 1 月 15 日（水）15 時 11 分（日本時間）に打ち上げられた SpaceX 社の Falcon9 により、所定の軌道に投入されました。ランダーは同日、午後 4 時 44 分（午前 7 時 44 分 24 秒 協定世界時）にロケットから分離された後、ispace の管制室との通信を確立し、ランダーの姿勢の安定と、軌道上での安定した電源供給の確立を確認しました。引き続き、Success 4 達成に向けて、その他のランダーの基幹システムに不備が無いことを確認してまいります。

**■ 株式会社 ispace 代表取締役 CEO & Founder 袴田武史のコメント**

「RESILIENCE ランダーとの通信確立、姿勢制御、電力供給の確立により、安定した航行状態を確立することにまずは成功いたしました。今後予定されている初回軌道制御マヌーバの実施へ向けて、ミッション 1 で獲得した知識と経験をフルに活用し準備を進めてまいります。」



Space X の Falcon 9 ロケットが RESILIENCE を搭載してケネディー宇宙センター 39A 射点から打ち上げられる様子

### ■ ミッション2 マイルストーン

ispace は打ち上げから月面着陸まで、10 段階のマイルストーンを設定しました。各マイルストーンには基準を設け、達成を目指します。基準に基づき評価された結果は、後続する開発中のミッションに適宜フィードバックされます。なお、各マイルストーン達成の進捗状況等は適時に公開を予定しております。

**ミッション2 マイルストーン**

ispace

ミッション2では、10段階のマイルストーンを設定し、それぞれ  
のサクセスクライテリアを達成することを目指します。

- ▶ Success 1** [打ち上げ前3日] **打ち上げ準備の完了**
  - 打ち上げ機（Falcon 9）の整備が完了
  - 打ち上げ機（Falcon 9）の燃料が満タリ
  - 打ち上げ機（Falcon 9）の打ち上げ許可が得られた
- ▶ Success 2** [打ち上げ後数分] **打ち上げ及び分離の完了**
  - ロケットの打ち上げ軌道が安定
  - ロケットの打ち上げ軌道が安定な状態に保たれること、および打ち上げ軌道の精度が確保されること
  - ロケットの打ち上げ軌道が安定な状態に保たれること
- ▶ Success 3** [打ち上げ後数分] **安定した航行状態の確立**
  - ロケットの打ち上げ軌道が安定な状態に保たれること、および打ち上げ軌道の精度が確保されること
  - ロケットの打ち上げ軌道が安定な状態に保たれること
- ▶ Success 4** [打ち上げ後2日] **初回軌道制御マヌーバの完了**
  - ロケットの打ち上げ軌道が安定な状態に保たれること
  - ロケットの打ち上げ軌道が安定な状態に保たれること
- ▶ Success 5** [打ち上げ後2日] **月フライバイの完了**
  - ロケットの打ち上げ軌道が安定な状態に保たれること
  - ロケットの打ち上げ軌道が安定な状態に保たれること
- ▶ Success 6** [打ち上げ後3日] **LOI前のすべての深宇宙軌道制御マヌーバの完了**
  - ロケットの打ち上げ軌道が安定な状態に保たれること
  - ロケットの打ち上げ軌道が安定な状態に保たれること
- ▶ Success 7** [打ち上げ後4日] **月周回軌道への到達**
  - ロケットの打ち上げ軌道が安定な状態に保たれること
  - ロケットの打ち上げ軌道が安定な状態に保たれること
- ▶ Success 8** [打ち上げ後4日] **月周回軌道上でのすべての軌道制御マヌーバの完了**
  - ロケットの打ち上げ軌道が安定な状態に保たれること
  - ロケットの打ち上げ軌道が安定な状態に保たれること
- ▶ Success 9** [打ち上げ後4日] **月面着陸の完了**
  - ロケットの打ち上げ軌道が安定な状態に保たれること
  - ロケットの打ち上げ軌道が安定な状態に保たれること
- ▶ Success 10** [打ち上げ後4日] **月面着陸後の安定状態の確立**
  - ロケットの打ち上げ軌道が安定な状態に保たれること
  - ロケットの打ち上げ軌道が安定な状態に保たれること

HAKUTO-R

マイルストーン		クライテリア
<b>Success 1</b> (完了)	打ち上げ準備の完了	<ul style="list-style-type: none"> <li>RESILIENCE ランダーすべての開発工程を完了</li> <li>打ち上げロケットへの搭載が完了</li> <li>世界の多様な地域で柔軟にランダーを組み立てることが出来る能力の実証</li> </ul>
<b>Success 2</b> (完了)	打ち上げ及び分離の完了	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロケットからランダーの分離が完了</li> <li>ランダーの構造が打ち上げ時の過酷な条件に耐えられること、および設計の妥当性を再確認するとともに、将来の開発ミッションに向けたデータを収集</li> </ul>
<b>Success 3</b> (完了)	安定した航行状態の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>ランダーと管制室との通信を確立し、姿勢の安定を確認するとともに、軌道上で安定した電源供給を確立</li> </ul>
<b>Success 4</b>	初回軌道制御マヌーバの完了	<ul style="list-style-type: none"> <li>初回の軌道制御マヌーバを実施し、ランダーを予定軌道へ投入</li> </ul>
<b>Success 5</b>	月フライバイの完了	<ul style="list-style-type: none"> <li>打ち上げ約1か月後に、月フライバイを完了</li> <li>深宇宙航行を開始</li> </ul>
<b>Success 6</b>	LOI 前全ての深宇宙軌道制御マヌーバの完了	<ul style="list-style-type: none"> <li>太陽の重力を利用した全ての深宇宙軌道制御マヌーバを完了し、月周回軌道投入マヌーバの準備を完了</li> </ul>
<b>Success 7</b>	月周回軌道への到達	<ul style="list-style-type: none"> <li>最初の月周回軌道投入マヌーバによるランダーの月周回軌道投入の完了</li> <li>ランダーとペイロードを月周回軌道に投入する能力を再実証</li> </ul>
<b>Success 8</b>	月周回軌道上でのすべての軌道制御マヌーバの完了	<ul style="list-style-type: none"> <li>着陸シーケンスの前に計画されている全ての月軌道制御マヌーバを完了</li> <li>ランダーが着陸シーケンスの開始準備が出来ていることを実証</li> </ul>
<b>Success 9</b>	月面着陸の完了	<ul style="list-style-type: none"> <li>月面着陸を完了させ、今後のミッションに向けた着陸能力を実証</li> </ul>
<b>Success 10</b>	月面着陸後の安定状態の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>着陸後の月面での安定した通信と電力確保を確立</li> </ul>

## ■ ミッション2で輸送するペイロードについて

ispace はミッション2の RESILIENCE ランダーに6つのペイロードを搭載し、輸送します。

- HAKUTO-R のコーポレートパートナーである高砂熱学工業株式会社の月面用水電解装置
- 株式会社ユウグレナの月面環境での食料生産実験を目指した自己完結型モジュール

- 台湾の国立中央大学宇宙科学工学科が開発する深宇宙放射線プローブ
- 株式会社バンダイナムコ研究所の「GOI 宇宙世紀憲章プレート」
- ispace の欧州法人 ispace EUROPE が開発したマイクロローバー”TENACIOUS”
- スウェーデンのアーティストによるムーンハウスと呼ばれる赤い小さな家

また、RESILIENCE ランダーには、人類の言語と文化遺産を保護したユネスコのメモリーディスクも搭載しています。

## ■ 株式会社 ispace (<https://ispace-inc.com/jpn/>)について

「Expand our planet. Expand our future. ~人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ~」をビジョンに掲げ、月面資源開発に取り組んでいる宇宙スタートアップ企業。日本、ルクセンブルク、アメリカの 3 拠点で活動し、現在約 300 名のスタッフが在籍。2010 年に設立し、Google Lunar XPRIZE レースの最終選考に残った 5 チームのうちの 1 チームである「HAKUTO」を運営した。月への高頻度かつ低コストの輸送サービスを提供することを目的とした小型のランダー（月着陸船）と、月探査用のローバー（月面探査車）を開発。民間企業が月でビジネスを行うためのゲートウェイとなることを目指し、月市場への参入をサポートするための月データビジネスコンセプトの立ち上げも行う。2022 年 12 月 11 日には SpaceX の Falcon 9 を使用し、同社初となるミッション 1 のランダーの打ち上げを完了。続くミッション 2 も 2025 年 1 月 15 日<sup>i</sup>に打ち上げ完了。ミッション 3 は 2026 年<sup>ii</sup>、ミッション 6 は 2027 年に<sup>iii</sup>打ち上げを行う予定。

ミッション 1 の目的は、ランダーの設計および技術の検証と、月面輸送サービスと月面データサービスの提供という事業モデルの検証および強化であり、ミッション 1 マイルストーンの 10 段階の内 Success8 まで成功を収めることができ、Success9 中においても、着陸シーケンス中のデータも含め月面着陸ミッションを実現する上での貴重なデータやノウハウなどを獲得することに成功。ミッション 1 で得られたデータやノウハウは、後続するミッション 2 へフィードバックされました。更にミッション 3 では、より精度を高めた月面輸送サービスの提供によって NASA が行う「アルテミス計画」にも貢献する計画。

## ■ HAKUTO-R (<https://ispace-inc.com/jpn/m1>)について

HAKUTO-R は、ispace が行うミッション 1 およびミッション 2 を総称する、民間月面探査プログラム。独自のランダー（月着陸船）とローバー（月面探査車）を開発して、月面着陸と月面探査の 2 回のミッションを行う。SpaceX の Falcon 9 を使用し、2022 年にミッション 1（月面着陸ミッション）のランダーの打ち上げを完了。2025 年 1 月 15 日<sup>iv</sup>にミッション 2（月面探査ミッション）の打ち上げを完了。

オフィシャルパートナーである株式会社三井住友銀行により命名された Mission 2 “SMBC x HAKUTO-R VENTURE MOON”には、新たな始まりやチャンスの意が込められている。

HAKUTO-R はオフィシャルパートナーとして株式会社三井住友銀行、コーポレートパートナーとして、日本航空株式会社、三井住友海上火災保険株式会社、日本特殊陶業株式会社、シチ

---

ズン時計株式会社、スズキ株式会社、高砂熱学工業株式会社、SMBC 日興証券株式会社、S k y 株式会社、Epiroc AB、株式会社ジンス、栗田工業株式会社が参加している。

---

i 2025 年 1 月時点の想定

ii 2025 年 1 月時点の想定

iii 2025 年 1 月時点の想定

iv 2025 年 1 月時点の想定